

学校関係者評価報告書

学校法人 福田学園
大阪工業技術専門学校
自己点検・評価委員会
学校関係者評価委員会

学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校(自己点検・評価委員会)が実施した平成30年度自己点検・評価表に基づき、下記日時に開催した『学校関係者評価委員会』に於いて以下の意見と評価がありました事を報告致します。今後は、この評価委員から頂きました意見等を真摯に受け止め、より良い学校運営と教育に努めて参ります。

- 開催日時: 令和元年9月6日(金) 14:00 ~ 16:00
- 場 所 : 学校法人福田学園(1号館3階小会議室)
- 学校関係者評価委員 出席者

【評価委員】	所 属	役職等
松山義広	県立奈良朱雀高等学校	建築工学科長
延安浩二	株式会社金山工務店	執行役員
河野正道	住友精密工業株式会社	総務人事部人事G アシスタントマネジャー
木口特次	卒業生	建築学科(昭和51年卒)
【内部委員】	所 属	役職等
伊東和幸	大阪工業技術専門学校	副校長
浜野哲二	大阪工業技術専門学校	事務部長
宗林 功	大阪工業技術専門学校	教務課長
吉田裕彦	大阪工業技術専門学校	企画開発局長
堀部達夫	大阪工業技術専門学校	ロボット・機械学科長
吉松秀典	大阪工業技術専門学校	広報担当課長
善才雅夫	大阪工業技術専門学校	進路支援室長

◆評価委員の意見と評価

A:十分に満足できる(3点) B:満足できる(2点) C:やや不十分である(1点) D:不十分である(0点)

項 目	評価委員の意見等	総合評価 (平均値)
【基準1】 教育理念・目的・ 育人人材像	学校の特色として、文科省の委託事業(Society5.0)を受託され、先を見据えた取り組みをされていることは評価できる。建築系・機械系の両分野を設置する御校にとっては分野を跨いだ内容となることから、是非とも、これから求められる情報社会にも対応できる人材育成のためのプログラム開発に期待します。	3
	次の時代へ移行する社会において文科省の委託事業を受託されるなど学校に求められる役割が重くなる。社会のニーズに応えられる特色を打ち出していきたい。	
	教育理念・歴史・優秀な人材の輩出等、優位にあると思料される。	
	建築士資格とともに、(学生のニーズは少ないかもしれないが)施工管理技士の資格についてもクローズアップされてはどうかと考える。	
	校友会と学校との共同カリキュラム等が今後実践できれば良いと思われる。	
	Society5.0への取組「専修学校による地域産業中核人材養成事業」について、本年度は2年目で3か年計画で実施していることは評価できる。良い結果が残せるよう各種業界団体との連携に期待します。	

<p>【基準2】 学校運営</p>	<p>専任教員の採用について、フレキシブルな雇用として検討されている内容は、一般企業としての採用形態では難しいことですが、そう進めることで学校のニーズに合った良い人材が確保できるのであれば手法の一つだと思います。</p> <p>学校運営に必要な人材の確保はできているようだが、「働き方改革」を推進している中で、勤務日数が少ない選任教員の採用などを検討し、さらなる人材確保に努めてほしい。</p> <p>運営方針がきちんと各職員のすみずみにまで行き渡るような組織作りがなされている。</p> <p>人材確保のためにも、人事考課制度の整備には引き続き努力されたい。</p> <p>週3日、週4日の専任教員(準専任)の採用についても柔軟に検討していることは、固定概念から脱却する良い思考だと思います。</p>	<p>2.5</p>
<p>【基準3】 教育活動</p>	<p>研修として、専門性を高めるものと教授力を養うものと代表者が受講され、それを学内でフィードバックされていることは確認できました。ただ、検討事項として挙げられている全員合同での研修については、メリットも多く工夫を凝らしてでも開催してほしい。</p> <p>時代の流れとともに教員の専門性や教授力を向上させる必要があるが、各種関連団体が実施する研修会などを有効活用し向上に役立てていただきたい。</p> <p>学生の気質や学力水準が時代とともに変化中、授業評価等で学生の意向も捉えつつ、対応しているところが評価できる。</p> <p>既卒者(OB)の参加による職種別の実践授業の採り入れも良いと思われる。</p> <p>教員の専門性を向上させる研修を組織的・計画的に、全教員が等しく参加できる機会を設定しようとしていることを評価します。</p>	<p>2.5</p>
<p>【基準4】 教育成果</p>	<p>就職に関する各項目ごとに於いて目標数値を掲げ、その達成率も建築系・機械系ともまったく問題なく評価に値する。ただ、未活動者の抜けは、今後無いように気を付けてください。また、資格取得に関しては、建築系・機械系と大きな括りのものもあれば、各学科特性としての専門分野に係わるものもありますので、単純に資格取得だけを推し進めるのではなく、その資格の持つ意義も踏まえて学生への指導をお願いします。</p> <p>2名の生徒が進路未決定となったことは非常に残念である。</p> <p>進路が学生の活動状況を集約し、データ化することにより動きの見られない学生を注視することで、担任、進路、学生の連携を深めていただきたい。</p> <p>資格取得について大きな成果が出ている。就職に関しても、学生の特性をよく把握しきめ細やかで的確な進路指導の結果が内定率・決定率に表れていると思料する。</p> <p>学生からの進路活動報告を徹底し、進路支援室が集約し、日々更新・発信することにより最新情報が共有されていることに評価します。</p>	<p>2.5</p>
<p>【基準5】 学生支援</p>	<p>進路支援室主導で各クラス担任との連携のもと、学生全員に対して個別面談を実施されていること、また、学内に於ける企業説明会を年間58社開催されていることと併せて就職等の体制整備と機能がなされていることを理解しました。</p> <p>学生の就職・進学支援については体制が整備され有効に機能している。特に、就職に関する学生へ寄り添う方策は概ね実践できているので継続していただきたい。</p> <p>就職支援について、個別学生への関わり度合いは他校より優位にあると感ずる。</p> <p>その他の部分においても、学生への配慮・支援がなされており、問題ない。</p> <p>基礎学力向上プログラムを更に強化している。文章力・語彙力を新聞や読書を通じて能力形成を図っていることに見習うべき所がある。</p>	<p>2.8</p>

<p>【基準6】 教育環境</p>	<p>中期計画に基づいて予算を確保し、計画的に整備をされていることを確認しました。 また、限られた資源(施設等)の中で工夫もされているようで、学生の学習環境が悪くならないよう努力してください。 日本に於いては、防災への備えが必須ですので、是非とも取り組んでください。 施設・設備の更新は、中期計画に基づき計画通り実施している。 また、急な対応をせざるを得ない状況においても適切に対応している。 万が一の災害が発生した場合は、十分な保険に加入されている。 せっかく受け入れできた学生が充分・のびのびと学べるよう、施設面・教職員面で余裕をもって対応できる環境を更に目指して頂きたい。 学園内のネットワーク・PC機器のメンテナンスには、専属教員が配属されており、また施設・設備のメンテナンスには、営繕担当が対応し整備体制が取れている。</p>	<p>2.8</p>
<p>【基準7】 学生の募集と受け入れ</p>	<p>学生募集について、建築系・機械系ともに概ね堅調であり、入学者アンケート調査でも高い評価を得ていることで学校の安定度を感じられます。また、建築系の設備学科についての対応は経年の動向を勘案した上での決定事項だと思われるので、設備を希望する学生には十分満足できるようなコースとして編成されることを期待します。 募集定員を満たせていない学科の学生募集を停止するなど、適切な対応が取られている。今後も学生の応募状況を見ながら各学科の統廃合を進めていただきたい。 創立120年を超える信頼と実績に併せ、教育理念・学校運営方針にふさわしい恒常的な活動によって学生の募集は充分に行えているものと思料する。 校友会ネットワーク推薦制度を積極的に活用することにより、優秀で志のある人材募集する方法もある。 募集定員を満たす募集活動であるかを検証した結果、2020年度より、設備環境デザイン学科の学生募集を停止し、建築学科内に設備専攻・設備コースとして、建築設備を希望する者に対応することは、やむを得ない施策だと思われる。</p>	<p>2.8</p>
<p>【基準8】 財務</p>	<p>長期の負債もなく、安定的な財務運営が行われている。 引き続き学園全体の黒字決算を維持していただきたい。 予算通りの実績を積み上げている、強固な財務体質を堅持していることから、財務には全く懸念なく評価できる。 校舎老朽化の修繕対策を適切に計画・実施している。タイル剥離、LED化、空調機入替、屋上防水など。電気代のコスト軽減策、清掃業務の外部委託についての財務改善策を行っていることを評価します。</p>	<p>3</p>
<p>【基準9】 法令等の遵守</p>	<p>教職員や学生等に対する法令や専修学校設置基準等の遵守の啓発活動が十分ではないようなので引き続き検討いただきたい。 法令順守について、学校の体制としては整っていると思料される。 一方、教職員・学生一人一人に周知徹底するのは困難ではあるが、根気強く継続的に頻繁に行う必要があると認識する。 法令や専修学校設置基準の遵守に関して、教職員・学生にガイダンスや教職員研修で啓発活動を実施しているが、十分な内容では無いように思われる。</p>	<p>2.3</p>

【基準10】 社会貢献	行政との取り組みや企業とのコラボレーションは、単純に社会貢献として捉えるだけなく、学生にとって良い経験となることは間違いのない事実なので、可能な限り積極的にその取り組みを推進させてください。	2.5
	行政機関、民間企業、周辺施設などとの連携・交流が図られている。	
	さらなる交流を深めていただきたい。	
	できることは充分実施できていると思料される。	
	学生のボランティア活動への奨励・支援は難しい面もあるが、課題として挙げているような、身近なことから実施することが重要と考える。	
	空き家対策(リノベーション)等を校友会と学生がコラボしてみてもどうか。	
	大阪市と地域住民の方々との街づくり提案を、北区区長にもプレゼンテーションを行い	
	不動産会社や経営コンサルティング会社との連携で、店舗・マンションのリフォーム提	
	案を行っている。また、コンビニエンスストアの店舗リニューアル提案も行っていることは	
	学生にとって良い経験値となるであろう。	
	【基準11】 国際交流	
外国人留学生の受け入れについては、計画的に行われているようなので、今後は体制を整備いただきたい。		
外国人の日本での技術習得ニーズはより高まるものと推測される中、貴校の立場は一層重要性を帯びてくると思料されることから、体制を充分整えて対応されたい。		
昨今の外国人留学生の増加は、学校に魅力があるからだと認識しています。		
留学・就労のビザ取次申請ができる外国人留学生担当者を配置して対応されている。		

※尚、上記の意見と評価は、委員会当日(9/6)に出席されました評価委員の皆様方から、後日、別途改めて頂戴しました評価表を集約し、纏めて記載しております。